市の本年度の指導の重点

◎　学ぶ楽しさを実感し、真理を求め、学び続けるための「確かな学力」を育む教育の推進
◎　命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「豊かな心」を育む教育の推進
◎　体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「健やかな体」を育む教育の推進

三教研の研究テーマ（第 16 期）

仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業

教育課程のねらい

・豊かな心をもち、たくましく生きる人間の育成
・自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成
・基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実
・国際理解を深め、わが国の文化と伝統を尊重する態度の育成

研究主題

「仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」（4年目）

◆『仲間とかかわりながら』

ここでいう「仲間」とは、共に学びあう学級の子どもたちだけでなく、学びを通してかかわる人たちもすべて含めたものを意味する。よりよい社会づくりへの参画のためには、仲間とかかわりあうことが礎となるべきであると考える。そのために、

・追究において、学級の「仲間」とともに様々な人・もの・こととかかわりながら、仲間と考えを認め合い、高め合う場を重ねていくことで、協働して考えを深める子どもの姿を求める。
・学習の対象となるすべての人とのかかわりを深め、「仲間」として意識することで、問題に対する切実感を高め、協働してより高い次元の学びへと導く。

◆『よりよい社会づくり』…『よりよい社会』とは、そこにかかわる人にとって、幸せを感じられる社会（持続可能な社会）である。よりよい社会づくりのために、

・目の前やこれから起こりうる問題を解決するために、様々な方法で追究し、仲間と互いに協働する中で、自分の考えを深め、問題の解決に迫る子どもの姿を求める。
・自分の考えと仲間の考えのよさをそれぞれ生かしながら、よりよい解決をめざす子どもの姿を求める。

→問題の解決が見えた先にあるのが『よりよい社会』である。

◆『参画をめざす』…『よりよい社会づくり』へ「参画する」という行動化だけをめざすのではなく、行動化への意識や意欲を高めたり、きっかけを作ったりする「参画していこうとする」姿や、社会とのかかわりに「思いをはせる」姿もめざす。そのために求められる資質や能力は、

・資質…確かな社会認識、価値判断、行動力
・能力…コミュニケーション能力

→こうした資質や能力を培うことで、変化の大きい今日の社会において、現在だけなく、未来においても、子どもが主体的に社会にかかわる姿勢、つまり、『参画をめざす』姿が見られるようになると考える。

【本年度の重点】

「仲間とかかわりあうことを通して、よりよい社会づくりに向けた新しい価値観に気づく姿の実現」

子どもは、目の前やこれから起こりうる問題に目を向け、仲間とのかかわりの中で、より多くの人が幸せになれる社会（持続可能な社会）の実現をめざす。その実現に向けて欠かせない、新しい価値観に気づく社会科の授業を実現したい。その上で、よりよい社会をつくっていくためには何が必要かを仲間とのかかわりの中で考え、自ら選択判断し、参画へつなげようとする姿を社会科の授業で実現したい。

昨年度までの研究において、仲間とかかわりあうことでよりよい社会づくりについて考えることができることは明らかになった。しかし、その仲間とのかかわりが、子どもにこれまでにない新しい価値観を気づかせるに至ったのかはさらに研究を進める必要がある。そこで、今年度の社会の授業は仲間とのかかわりあいの中でも、特に追究活動後の議論する時間に焦点をあてていきたいと考える。議論することで、自分の考えと仲間の考えを照らし合わせた子どもたちは、両者の考えの共通点や異なる点を比較検討する中で、これまでの自分にはない新しい価値観に気づくことができるようになるであろう。この価値観が、学びの質を高め、よりよい社会の実現への原動力となる。本年度は、この新しい価値観の気づきを重視した単元構成を重点に、研究に取り組みたい。

◎　仲間との議論において、新しい価値観に気づく、さらにはその価値を実感して進み出す子どもを育てたい。そのためには、どんな教材で、どんな単元構成を立て、どんな教師支援を行う必要があるのか。